



情報化時代のアップデート

9月14日(火)「個人情報と情報セキュリティ」について教職員研修を行いました。昨今、個人情報の取り扱いが厳しくなっています。個人情報とは「生存する個人に関する情報で、特定の個人を識別できるもの」です。大学にも学生の成績など個人情報が多くデータ化されています。かつては卒業生名簿に住所などの個人情報が載っていることに疑問を抱かない時代がありましたが、勧誘電話やストーカー、偽署名などいろいろな事件が発生するようになり、名簿作成をやめる大学も増えています。

一方、個人情報がデジタル化されたことで小さな会社でも10万人単位の顧客情報を扱えるようになってきました。コロナ禍、テレビでは個人を特定できないようにして駅前の人出を調べた数字が毎日報告されています。個人情報も使い方によってはいろいろな場面で有効に使えるため、情報の保護と活用のバランスが重要になっているのです。また、情報セキュリティの面では海外のハッカーがインターネットを通じて、対策をとっていないパソコンやスマホにウィルスを侵入させ、データを消去したり、情報を盗んだりするだけでなく乗っ取って事件の当事者にしてしまう事例も多発しています。情報発信者側でもSNSでつぶやいた内容が炎上したり内容がいつまでも残ったりする問題が起こっています。

大学では情報リテラシーを必須にしていますが、担当教員に任せてしまう傾向があります。例えば、オンライン授業に使っているTeamsは使い方がたびたび変更されついていくのに精一杯です。学生がまじめに聴講しているかどうか確認が必要ですが、画像をオンにすると顔や部屋の中が映り込み、個人情報が流出する恐れがあります。デジタル時代を迎え情報に関する世論は日々変化し情報技術は日々進化しています。そこで、教職員の皆さんに「日々アップデートすることが重要です」というメッセージを送る意味で折に触れて情報研修に取り組んでいます。

就職で問われるコミュニケーション力

コロナ禍、2年目の就職戦線も終盤を迎えています。ポストコロナ時代の不透明感から採用数を控えている企業が多く、例年より苦戦しています。就職担当からは「コミュニケーションが苦手な学生が残っています」と報告を受けています。かつては寡黙で会社の方針に従って黙々と働く人材を採用していた企業が今はコミュニケーション力を第一に掲げています。モノが行きわたって、多様な要望に応えなければ売れないマーケットインの時代になったことが原因の一つと考えられます。かつては「あのテレビ見た？」で話が弾んだのに、今はユーチューブのニッチなコンテンツが話題になって、何がいいのか、自分の言葉で伝えないと話が通じない時代になって来ました。また、技術革新や価値観の変化が速い時代を迎え、売れる商品を見出すには消費者の隠れた声を探し出し、多くの部署が協力してスピード感を持って開発することが重要になっています。そこで、どの業態も情報共有をスムーズに行えるコミュニケーション力がある人材を求めるようになりました。

しかし、今の学生は「一人一人に個性がある、自分らしく生きることを大切に、自分のやりたいことをやりなさい」と小学校時代から言われ、コミュニケーションの重要性を教えてくれる先生はいませんでした。就職に際し、にわかには面接の練習をしてもうまくコミュニケーションが取れない学生が多いのです。私は経験上、実務に求められるコミュニケーション力は、質問の内容を正しく理解し「私はこう考えます。その理由はこうで、こういう経験をしたからです」などと答えられれば十分と考えています。

本学ではコミュニケーションが苦手な学生には、就職指導時に限らず日頃から、学生が持っている良い点を見極める緊密な対話の場を持っています。学生はその対話経験を通じて怖がらずに話す会話を身につけ、自分の長所を活かせる企業との出会いにつなげています。